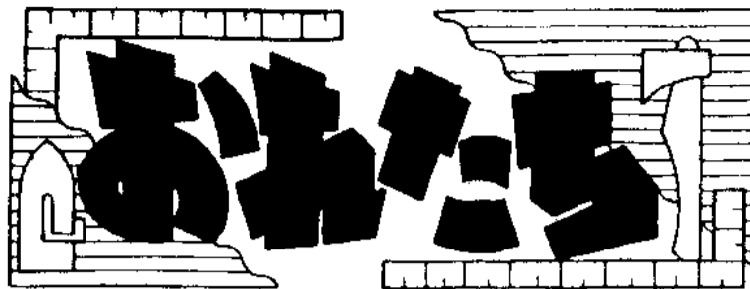


無料法律相談日の案内

1月20日(金)14時~16時

希望者は前日までに予約を

1月当初組合員数=1862人 (-25人)



発行所
東京土建一般労働組合荒川支部
東京都荒川区荒川6-3-1
TEL(3892)9131 FAX(3892)9381
発行者・津田宗久/編集長・増山國吉
http://www.doken-arakawa.org/



黒い雨、黒い果汁

原爆、虐め、放射能の三重苦

【菊池賢太郎川書記局】世界で初めて原子爆弾が投下されてから77年が経ちました。原子爆弾の威力は凄まじく、周囲半径2000メートルを壊滅させました。今回は、広島に原子爆弾が投下された1945年8月6日、爆心地から1キロメートル程離れた観音町に住んでいた柘上さんにお話を聞きしました。



原子爆弾が投下された日、柘上さんはまだ3歳でその日は風邪をひいて自宅で休んでいました。自宅には柘上さんの他に姉、母、祖母が住んでいました。母は柘上さんの薬を買いに薬局に出かけていました。

午前8時頃、強い衝撃に襲われ気がついた時には3人も潰れた自宅の下敷きになっていました。はじめは何が起きたのか分かりませんでした。一切の身動きが取れなくなり、しばらく経ってから隣の家に住んでいたおじさんが引きずり出してくれましたが、その人が居なかったらその場で死んでいたと思います。



インタビューに応える柘上朱美さん

薬局に出かけていた母は、周囲の店の窓ガラスが飛んできて1センチ幅のガラス片が顔に刺さり流血する大けがをしていました。自分がそんな状態になっていられることも分らないくらいに衝撃を受け呆然としていました。



辺り一面には、建物も木も何も無くなっていました。あるのは死体ばかりです。祖母は私をおんぶしながら、姉の手を引いて、死体を踏み分けながらどこへ向かっていいかも分からず彷徨い続けました。

歩いている途中雨が降りました。皆さんも一度は聞いたことがあるあの



観音町民の慰霊碑

「黒い雨」です。周囲にあつたものはすべて吹き飛んでいたので遮蔽物もなく、ただその雨を浴び続けるしかありませんでした。もちろん当時はその有害性も分からず、食べ物どころか水も無かったので、恵みの雨だと思って飲んでいる人も居ました。今考えるととても恐ろしいです。



飢えに苦しみながら必死に歩いてみると荒れ果てた畑に赤く熟したトマトが生っていました。盗みはいけないことだとは分かっていますが、何日も飲まず食わずだったのでなり振り構っていられます。

姉がそれを取って食べようとした時でした。触れた瞬間トマトが破裂し、中から黒い液体が溢れ出し、辺り一面に飛び散ったのは衝撃的で今も鮮明に覚えています。そのトマトは放射能で汚染されていたのです。ようやく手にした食べ

物が食べられなかったことよりも、見たことのない色の果汁を浴びたことの方が衝撃的でした。

その後、祖母の実家がある佐伯郡砂谷村へ向かうこととなり、母と合流することが出来ました。ようやく元の生活に戻れると思いましたが現実にはそんな甘い話はありませんでした。



私が小学校に入学した時の事です。私の通っていた小学校には同じように被爆した子供は少なく、被爆者に対する差別やいじめが始まりました。私には皆さんが想像するようなケロイドや傷は特に無かったので、それが「放射線を浴びた人間は汚い」というイメージがあったのかもしれません。

また、そのいじめを助長していたのがアメリカ軍による検査でした。月に一度、学校に黒塗りの車が来て、被爆者を検査の為に連れていくのです。私は訳も分からず連

れていかれ、何をされているのかは分かりませんでした。お汁粉や甘いお菓子なども貰えるので少し楽しみにしていました。そんな小さな楽しみでもありませんでしたが、少しでも前向きに考えて生きるように心がけていました。そうしなければ生きていられませんでした。



その後、月日が流れ社会人になり、結婚を機に千葉に引っ越しようやく平穏な日々が手に入り、子宝にも恵まれ孫も生まれ、原爆のことなどすっかり忘れて過ごしていた時、突然放射能という悪魔が牙を きました。体に大きいしこりができて気になったので病院に行ったらところ「悪性リンパ腫」という白血球の1種であるリンパ球が癌化する血液の癌と診断されました。もちろん原因は幼少期に浴びた放射能です。

幸か不幸か濾胞性(ろほうせい)リンパ腫という進行が遅い癌だったため、患ってから19年経った今も元気とは言えませんが生きています。癌になっただけで症状が悪化する度に放射線治療や抗がん剤治療を行い、人体に使用できる一生分の放射線と薬を使いました。ひどい吐き気に襲われ、髪も

抜けてしまい、時には胸に水が2リットル溜まり呼吸困難になり、死んでしまいたいと思うくらい非常に苦しい思いもしました。血液の癌のため、ほぼ全身に癌細胞がありますが、首より上に転移してしまつた時には為す術がないと医者から告げられていました。もし今後また症状が悪化した場合は大人しく死を受け入れるしかありません。



決して不幸な人生だったとは思いませんが、原爆が私に残した傷は常に心の片隅に潜み決して癒えることはありません。今回インタビューした方は私の祖母です。私も被爆者三世で、一般的には被爆の影響が遺伝する可能性は少ないと言われていますが、今後その影響が出てくるかもしれないと考えると不安は残ります。

組合に入る前は、このような悲惨な状況にあつた人の話を聞いていてもそこまで関心を持っていませんでしたが、組合の活動を通して改めて平和の大切さを実感しました。世界ではロシアのウクライナ軍事侵襲など大きな問題となつていますが、このような被害者が二度と生まれることのない平和な世界になってほしいと思います。

謹賀新年



新年明けましておめでとうございませう。皆様と新しい年を迎えることができ嬉しく思います。

3年間にも及ぶコロナ禍で1月半ばには第8波のピークとの報道のある中、そしてロシアによるウクライナ侵攻で世界的に困難がより一層激しさを増しています。

木材不足や資材高騰、食料品や光熱費等も上がり続け、私達の生活は厳しさが限界にきているとの切実な声が沢山挙げられています。そのような中、政府は防衛費拡大のため増税を打ち出しました。世論調査でも約半数の支持を獲ていますが、本当に今必要な事なのでしょうか。医療、年金、少子化対策や経済健全化、何より国民一人一人が健やかに暮らせる政策を優先させるべきではないでしょうか。

建設産業では後継者不足、働き方改革法案の時限措置も終わりに近づき、インボイス制度導入も開始されます。また、地球温暖化による深刻で壮大な被害が世界各国で起きています。

困難な事ばかりですが我々労働組合の役割、力を発揮するのは今ではないでしょうか。生きづらい時代ではありますが、我々には最大の力である沢山の仲間の繋がりがあります。平和で安心して生活出来るように今年も1年皆様と力を合わせ奮闘して参りたいと思えます。声を上げれば世界は変わります！今年1年共にがんばりましょう！

2023年元旦

支部執行委員長 津田宗久

新たな繋がりが 久しぶりの分会忘年会



距離を保って楽しく過ごしました

【竹達】ロシアによる2月24日のウクライナ侵攻から早9か月が過ぎました。ウクライナと8千キロ



No.133

以上離れている日本の私達には、ウクライナとロシアの戦争は川向こうの火事のように思われがちですが、ウクライナと日本の地政学的に共通点が多いのです。それは、ユーラシア大陸の東方の日本と西方のウクライナは、東西（権威主義国家・民主主義国家）両陣営の狭間（はざま）にあり、即ち緩衝国の運命にあることです。

日本は1960年（昭和35年）の日米安全保障条約締結から今日まで、62年間世界に類のないアメリカの前線基地の負担を隷属的に負い続

け、戦争放棄の平和憲法を持つ立憲国としての誇りも失い、アメリカの緩衝国に甘んじています。ウクライナは1922年（大正11年）ソビエト社会主義共和国連邦（以下ソ連とする）が成立した時の当事国（ロシア・ウクライナ・ザカフカース・ベラルーシ・白ロシア）でした。

ソ連初代首相レーニンは連邦成立2年後に他界し、政権はスターリンに変わり、名目上は複数の共和国から成る連邦国家でしたが、実際にはソ連共産党による中央集権的な一党独裁国家でした。

12月3日、尾久本町通り沿いの寿美館で東尾久2分会の忘年会を開催しました。当日は新型コロナウイルス対策を徹底しながら新鮮なお刺身やお寿司を肴に、お酒を飲みながら楽しみました。ここ数年は新型コロナウイルスの影響もあり、分会のレクリエーションなども出来ておらず、仲間のつながりが弱くなってしまっていました。今回、今年度の忘年会では拡大月間に新しく加入した方も参加し、久々に仲間が集まり交流できる良い機会となりました。当日は書記を含め26人の仲間が参加しました。今後も定期的に交流の場を設け、仲間のつながりを大切に、組合活動を頑張っていきたいと思えます。

2023年新春の集い
【開催日時】 1月22日(日)
【場所】 ホテルラングウッド
2F 飛翔
 荒川区東日暮里5-50-5

わが家のペット VOL. 7



カメラが気になるカリンちゃん

ウクライナの犬や猫たちがどうか無事でありませう祈っております。

【杉野平和通信員 日暮里2分会】私の家のペットは三毛猫の「カリン」です。2004年12月6日生まれで18歳ですが、人間だと88歳になります。とても元気な猫で今でもじゃれまわりがすごいです。

「サンチャン」です。このカメは猫よりずっと古くて1996年生まれで26歳、人間だと130歳くらいでしょうか。子供が小さい頃、竹芝から三宅島へフェリーで行き



冬眠中なのに起きてくれました

500円玉くらいの大きさだったのでお風呂と一緒に入っていました。今では24センチくらいに成長しています。夏の水替えは2日に1回くらいですが、冬近くになると冬眠に入るので自然に任せて4月末までエサは食べません。水替えは10月に1回くらいです。今回写真を撮るために動いてもらいました。さて、今ウクライナは大変な戦争状態です。ウクライナの猫や犬たちは大丈夫かとても心配です。ロシアは今すぐウクライナから出て行くべきです。

今月の

1枚



たわわに実った庄内柿

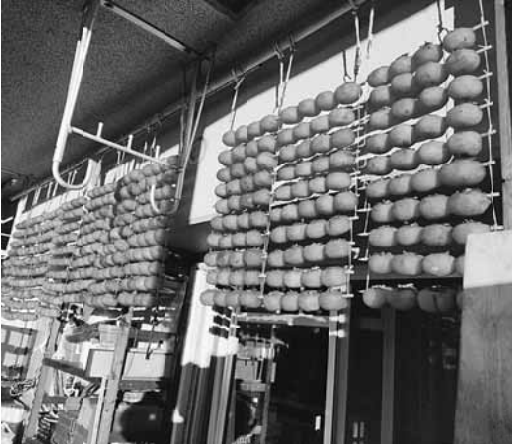
我が家の秋の風物詩

【竹達浩通信員 南千住分会】

「柿とりや へっぴり翁 木に登り」毎年このとである、晩秋になり柿に色づくころを見計らって、郷里に行って柿をとるのが楽しみの一つとなりました。郷里の空き家の我が家には4本の柿の木があります。

言われ柿は実をつけるのが遅く、中でも道端（道路から3メートル）に植えた一本の柿は、今年30年ぶりに実をつけてくれました。それは冬季に除雪ブルドーザーによって木が折られるために可哀想に実を付けることができなかったのですが、来年はたくさん実をつけて私達を楽しませてくれるでしょう。

写真は我が家の秋の風物詩、干し柿の風景です。その年の柿の生り具合によって数は異なりますが、およそ400から600個ぐらいつくりま



1か月後には甘い干し柿に

す。片や雪をかぶって、たわわに成っている写真の柿は、収穫しないで鳥たちに御馳走します。それは、自然の恵みは人間だけのものではないからです。

11・27秋の住宅デー

11月27日、支部会館で第45回秋の住宅デーを開催しました。

いまだに収束が見えないコロナ禍の中で、どのような形なら住宅デーを開催できるか実行委員会で討議を重ね、夏同様に各地域分会での開催は見送り、支部会館で統一開催することになりました。

当日は、包丁研ぎや住宅相談、工作教室をコロナ対策を徹底しながら開催しました。



マイ箸づくり教室の様子

工作教室はタイル細工とマイ箸作りの2つを開きました。タイル細工では色とりどりのタイルを自由に選び組み合わせてコースターづくりを行いました。様々な大きさや形のタイルに苦戦しながらも、楽しそうに試行錯誤している様子が見受けられました。

マイ箸作りでは、日本三

大美林である「青森ひば」を使ってカンナ削りなどを体験してもらいました。

参加した子供たちの保護者からは「普段できない体験ができました。ありがとうございます。」とお礼の言葉をいただきました。

包丁研ぎでは、ベテランの組合員の皆さんが多数参加してくれたこともあり、トラブル等も無く無事に終りました。



難しい部分は職人さんにおまかせ



カンパ金を社会福祉協議会へ渡す姫路書記長

当日は書記を含め27人が参加しました。

包丁研ぎでは、ベテランの組合員の皆さんが多数参加してくれたこともあり、トラブル等も無く無事に終りました。

包丁研ぎでは、ベテランの組合員の皆さんが多数参加してくれたこともあり、トラブル等も無く無事に終りました。

下町人情 荒川の味



荒川にある松栄庵にお邪魔しました

求人情報

【荒川支部】

募集職種・大工、現場監督

就労形態・正規雇用

働き先・町場

条件・普通自動車免許

人員・1〜2人

社名・株式会社岡野工務店

郵便番号・111-0003

住所・東京都台東区浅草6-26-3ケイテイ商会1F

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

TEL:03-5808-1944

黄金輝く職人の業



繊細な箔押し作業中の竹澤光雄さん(86歳)

皆さんは金箔押しというものをどこで見たでしょうか。金箔押しとは漆塗りで仕上げられた仏像や寺院の什器、神輿や獅子頭などを、漆のラッカーゼという酵素を利用して、純金の金箔を吸い付かせる技術です。金は槌で叩いて紙より薄く1万分の2ミリまで伸ばすと、5円玉1個の重さ位の金から、108ミリ(3寸6分) 正方形程度の大きさの金箔が130

箔押し職人へ取材

【並木義男記者 荒川分会・川又好一記者 日暮里1分会】12月9日、荒川区東尾久8丁目で金箔押し所を営む竹澤光雄さん取材させていただきました。

竹澤さんは荒川区東尾久(旧尾久町)出身で尾久小学校を卒業した後、早稲田

枚位できます。これを仏像や仏具、神輿や獅子頭等々の表面に貼りつけていく技を「箔押し」と言います。漆を塗っては拭き、そこに金箔を吸い付かせることを繰り返して完成させます(荒川区ホームページより)。今回は荒川区東尾久の竹澤金箔押し所で箔押しをやっている竹澤光雄さん取材させていただきました。

中学校、早稲田高校を卒業し早稲田大学に進みます。彫刻師である父は寺院本堂や神社本殿の彫刻をしていて、大学卒業後は父の知人である小松輝郷氏のいる愛知県名古屋市へ行き、金箔押しへの技術を修得しました。

その後、東京に戻り父の作次(号光辰)氏、父と同じ彫刻師である兄の省二

使用するのは金沢金箔

(号光達)氏(元荒川区登録無形文化財保持者)の元で金箔押しに携わります。その後、現在お住いの東尾久8丁目で独立しました。金箔は全国の90%以上の生産量を誇る石川県の金沢金箔を使用しています。



竹製ピンセット(上)と髪を使用した刷毛(下)



箔押しに使う道具は特殊で、金箔を挟み取るピンセットは竹で作られており、静電気が発生しづらい竹の皮の部分が使われています。漆を塗る刷毛を漆刷毛と

娘の髪を用いた刷毛

金箔は5円玉一つの重さ(3.75グラム)の金から108ミリ(3寸6分)の正方形の大きさの金箔が130枚位出来ます。その他に127ミリ(4寸2分)、151.5ミリ(5寸2.12ミリ(7寸)と様々な大きさがあります。金箔の厚みは1ミクロンで1万分の1ミリです。



木製迦陵頻伽彫刻の華鬘

(もくせいかりょうびんがちょうこくのけまん)

平成4年には、卓越した技術が認められ荒川区登録無形文化財保持者に認定されました。小学校の授業の一環で、尾久小学校、赤土小学校、峡田小学校、瑞光小学校、第一瑞光小学校、第一日暮里小学校に出向き、小学生から頂いた感想文やお札文は私の宝物と言って見せてくださいました。これからも日本伝統を継承していかれることを願います。

登録無形文化財保持者に

竹澤さんは萬光寺、宝蔵院、東覚寺など多数の寺院の荘厳具の政策に携わってきました。また、尾久八幡神社神輿の修理にも携わり他にも地方や地域の神輿の修理も手がけてきました。

金箔を扱う時は、金箔のみを竹ピンセットで取ると金箔自体の重みで切れてしまいますので金箔を挟んでいる紙と一緒に取って製品に被せて綿で押しあてます。凹凸の所や狭い箇所に合わせて金箔を切って貼り付けます。その後、金箔の重なった不要の部分をおとし継ぎ目が見えなくなり仕上がります。